



綴プロジェクト作品 重要文化財 竹林七賢図襖 ちくりんしちけんずふすま
 海北友松 筆 寄贈先・原本所蔵：大本山 建仁寺

日本の美を継承していくために
 Vol.14
 綴プロジェクト作品(高精細複製品)
 ◆重要文化財◆
 『竹林七賢図襖』 海北友松 筆

戦国の世に、海北友松が描いた理想の生き方。重要文化財「竹林七賢図」は、京都建仁寺の方丈、本尊をまつる室中という部屋を囲む襖絵である。戦国時代末、戦火で焼失した建仁寺を再興した安国寺惠瓊が、知己の絵師・海北友松に依頼して描かれたといわれる。古代中国・竹林に集い清談にふける賢者たち。俗世から離れた姿が、古くから理想の生き方として好まれた。僧侶と信徒が語らうこの部屋にふさわしい画題であると同時に、武家の生家を失って絵師となった友松の、戦乱の世への問いかけも込められている。

日本は天災などを避け、京都国立博物館に保存されています。二〇〇九年、綴プロジェクトは高精細複製品を寄贈しました。静謐な方丈で、描かれた当時と同じく設えられた襖を眺めれば、そこに語らう賢人達が居るかのよう。奥へ続く竹林の広がりも感じられます。それは、美術館とは異なる体験。忙しい俗世を離れ美に浸る。現代の私たちにこそ大切なひとときかもしれません。日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品(38作品)は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
 をご覧ください。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報
 綴プロジェクト作品「竹林七賢図襖」は建仁寺で公開中です。

